

地方創生関連交付金活用事業 実績シート

2018（平成30）年 効果検証

地方創生推進交付金事業 効果検証シート①

事業名	地域の“芽”をパパの“目”で育てる「佐野パパプロジェクト」(市事業名：佐野パパプロジェクト推進事業)						
担当課	都市ブランド推進室	事業実施年度	平成29年4月から 平成30年3月まで	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営
事業の概要	誰よりも地元(佐野市)を知り尽くし、地元を愛しているパパたちが本事業の主体となるが、このパパたちの人材育成を進めながら新たな地域産品等の発掘から開発、その育成プランを策定し、佐野市を代表できる商品として積極的に地域外に向けて販売することで、収益を生み出し雇用を創出させるとともに、佐野市の認知度向上や観光誘客を図る。					予算状況	総事業費(千円) 15,617 交付金額(千円) 7,808 一般財源(千円) 7,809
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		目標値	実績値	達成状況の説明		
	KPI①	パパグループ活動回数(回)	24回	24回	全体での会議回数は目標値通りであったが、このほか必要に応じて数名のメンバーで活動するなど、積極的な展開となった。		
	KPI②	年間観光入込客数(千人)	9,450千人	8,883千人	平成30年度までの事業期間中に972万人まで入込客数を増加させる目標値と定めたが、29年度においては達成することはできなかった。		
	KPI③	地域活性化プランのプラン(もしくは商品アイテム等)実行検討数(本)	1本	1本	約150のアイテムについて検討し、その中から1つについて実施した。		
活動状況	4~6月：地域ごとにメンバーに割当て、地域の芽の洗出し 5月：研修(うつのみやろまんちっく村) 7月：ワークショップ 8~9月：サンプルプランの検討 9月：新産品候補の決定 10~3月：テストマーケティングイベントの検討 2月：テストマーケティングイベント出店者説明会 3月：テストマーケティングイベントの実施・検証		主な効果	メンバーそれぞれが、市内の地域産業の「芽」について改めて検討し、事業の実効性、集客性等の視点から「ソース味のから揚げ」を新産品として決定した。また、佐野松桜高校の生徒が開発したソースを使用しコラボすることで、次世代の子どもたちの郷土愛の醸成を図った。 活動の様子は、パパたちの持つ様々な知識、経験、人脈等を活用し、各種メディア等を活用してPRすることによって話題づくりを行うことができた。また、この話題性やテストマーケティングイベントの結果から、市内事業者からの連携希望や、新しい連携の形の検討など、今後の販売事業化に向けての活動のきっかけとすることができた。			
取組の検証	改善余地の検証	テストマーケティングイベントの結果を検証し、販売事業化を実現させる。					
	今後の方針について	テストマーケティングイベントへの参加団体を中心に、市内に「ソース味のから揚げ」の販売店を広めるだけでなく、市外へも広く周知され、本市への誘客を図れるよう、食品メーカー等と連携して商品開発についても取り組む。 また、この「ソース味のから揚げ」をサンプルプランとし、市民の手によって産業の芽の育成からビジネス自走のためのきっかけや土壌・仕組みのモデルを作り、継続的に地域活性化するためのフレームをつくることで、持続性のある活動につなげていく。そして、新規事業者による事業化や既存の事業者による事業拡大につなげる。					

地方創生推進交付金事業 効果検証シート②

事業名	訪日ムスリムインバウンド推進事業（「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトにおけるサービス産業対応事業として交付申請）												
担当課	観光立市推進課	事業実施年度	平成29年度	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	新しい人の流れをつくる	実施方法	直営						
事業の概要	<p>本事業は、東南アジア等のイスラム圏から訪日するムスリムの旅行者に対するおもてなしを強化し、本市におけるインバウンドの推進を目的とするものである。本市を拠点とする「両毛ムスリムインバウンド推進協議会」が主体となり、ムスリムに対応した食事いわゆるハラールやお祈り場所等を提供できる態勢づくりを行うほか、インターネットによる情報発信、市内施設や店舗における英語表記の推進、市民のムスリムに対する意識啓発を図るためのセミナー開催及び広報活動の強化など環境整備を推進する。</p>					予算状況	<table border="1"> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>2,987</td> </tr> <tr> <td>交付金額（千円）</td> <td>1,493</td> </tr> <tr> <td>一般財源（千円）</td> <td>1,494</td> </tr> </table>	総事業費（千円）	2,987	交付金額（千円）	1,493	一般財源（千円）	1,494
総事業費（千円）	2,987												
交付金額（千円）	1,493												
一般財源（千円）	1,494												
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		目標値	実績値	達成状況の説明								
	KPI①	年間観光入込客数	8,800千人	8,883千人	目標値に達することができた。								
	KPI②	外国人宿泊数	650人	631人	国際クリケット場整備工事により、クリケットの国際大会の削減が外国人宿泊者数に影響した。								
	KPI③	ハラール認証取得事業所数	3件	0件	新たにハラール認証を取得した事業所はなかったが、ハラール食を提供する店舗は前年度7軒より13軒となった。								
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> 食を通じたムスリム交流イベントの開催（計2回） 市職員及び事業者向けムスリム対応セミナーの開催（計3回） 国内展示会「ハラールEXPOジャパン2017」出展 インドネシアの中高生の教育旅行受入 千葉県・台東区・日光市の広域連携によるセミナー及びファミトリップの実施 JA佐野による農泊推進によるツアー受入 外国人患者用指さし確認シートの作成（1万部） 「広報さの」への記事投稿（4回） 			主な効果	<ul style="list-style-type: none"> 食イベントの延べ参加者数 200人 セミナー開催による延べ参加者数 133人 プロモーション動画再生回数 6,265回 事業実施によるムスリム圏からの旅行受入人数 38人 協議会ネットワーク会員数 20会員 テレビ、新聞等によるパブリシティ効果 								
取組の検証	改善余地の検証	海外からの受入人数は前年度の88人を下回る結果となったが、課題であった市民をはじめ地元理解を高めるための事業や広域連携、農泊など事業の拡大を図ることができ、協議会ネットワーク会員数も前年度より9件増加した。更なる協議会会員増加を含め受入態勢強化にはまだ改善余地がある。また旅行会社との連携による海外からの具体的な送客の手段確保が重要課題と考える。											
	今後の方針について	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた訪日外国人増加を見据え、引き続き協議会と緊密な連携・協力のもと、情報発信、市民への普及啓発、会員店舗におけるハラール対応等を通じてムスリムの受入態勢の強化を図るとともに、旅行会社と連携した更なる誘客を推進する。											

地方創生推進交付金事業 効果検証シート③

事業名	ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業（市事業名：ツール・ド・とちぎ参画事業）							
担当課	スポーツ立市推進課	事業実施年度	平成29年度	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営	
事業の概要	第2回 ツール・ド・とちぎの開催支援 栃木県と県内全市町の連携事業 国内初の取組となる県内全域を舞台とした国際自転車競技連合公認レース「ツール・ド・とちぎ」の開催を契機に、県と県内全市町が連携した「自転車によるまちづくり」を進め、一層の観光誘客、地域活性化につなげていく。					予算状況	総事業費（千円）	800
							交付金額（千円）	400
							一般財源（千円）	400
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成29年度 目標値	平成29年度 実績値	達成状況の説明			
	KPI①	(全県)公営レンタサイクル利用者数	57,806人	62,268人	本市には公営レンタサイクルなし			
	KPI②	ツール・ド・とちぎ公式HP閲覧回数	11.0万回	14.67万回				
	KPI③	(全県)外国人宿泊者数	224千人	222千人				
	KPI④	(全県)観光消費額	6,290億円	6,283億円	フィニッシュ会場でのアンケート、事業費等から算定			
活動状況	〔主催〕 特定非営利活動法人ツール・ド・とちぎの会 〔主管〕 ツール・ド・とちぎ実行委員会 〔大会期間〕 平成30年3月23日から3月25日 3日間 佐野市の通過なし(28年度は通過・2か年で全市町) ○佐野市の業務 ・大会負担金支払(672千円) ・実行委員会、担当課長会議出席 ・大会周知ポスター掲示			主な効果		・約71,900人の観客動員(全体：前年66,000人) ・官民連携オールとちぎ体制で実施、自転車先進県とちぎの発信や観光誘客など、とちぎの地方創生に一定の成果 ・県全体経済波及効果：約11億1千万円(観客消費、大会運営費、関係者消費等から算出：前年10.9億円)		
取組の検証	改善余地の検証	・平成30年度は、第1回と同じルート(栃木市～仙波～船越～閑馬～下彦間～足利市)を通過する計画であり、コース沿道地域住民の理解を得るとともに、交通立哨を効果的に行う。						
	今後の方針について	・推進交付金(横展開)採択により、平成31年度まで事業は継続されることを確認している。						

地方創生拠点整備交付金事業 効果検証シート④

事業名	目指せ「クリケットの聖地」日本初の国際基準を満たすクリケットパーク改修・整備事業（市事業名：国際クリケット場整備事業）												
担当課	スポーツ立市推進課	事業実施年度	平成29年度	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営						
事業の概要	<p>廃校となった校舎やグラウンドをそのままクリケット専用競技場として活用してきたが、今後更なる公式試合や国際試合を誘致・実施するにあたり必要となる国際規格サイズのグラウンド、ピッチ（投球や打撃を行う場所）や観客席が必要になることから、地方創生拠点整備交付金を活用し、国際クリケット場の改修と観客席の整備を行った。</p>					予算状況	<table border="1"> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>393,120</td> </tr> <tr> <td>交付金額（千円）</td> <td>99,241</td> </tr> <tr> <td>一般財源（千円）</td> <td>293,879</td> </tr> </table>	総事業費（千円）	393,120	交付金額（千円）	99,241	一般財源（千円）	293,879
総事業費（千円）	393,120												
交付金額（千円）	99,241												
一般財源（千円）	293,879												
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成29年度 目標値	平成29年度 実績値	達成状況の説明								
	KPI①	クリケット場入場料	250千円	0千円	入場料を徴する試合、イベントの未実施（主体が市であったため）								
	KPI②	Web配信における有料チャンネル収入	180千円	0千円	整備工事のため、試合はなかった。								
	KPI③	外国人宿泊数	741人	631人	国際クリケット場整備工事のため、7月以降使用できなかったため								
活動状況	<p>整備内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 観客席設置 516席（スタンドベンチ6段172人用 3基） 天然芝グラウンド整備 男子国際規格（1面）横144.28m×縦133.5m、天然芝ピッチ9本 女子国際規格（1面）横118.98m×縦108.0m、天然芝ピッチ7本 			主な効果		<ul style="list-style-type: none"> 整備中のため、試合等はできなかったが、整備前、整備中、整備後を通して、テレビや新聞、インターネットなどのメディアによる取材、愛知県等の視察などを受けたことによるPR効果が得られた。 クリケットグラウンド整備に関し、海外のターフコンサルタント（STRI：オーストラリア）を招聘し、一定の評価を受けることができた。 							
取組の検証	改善余地の検証	今回のクリケットグラウンドの整備は、国際規格のグラウンドサイズやピッチ数を満たすことはできたが、これから高いレベルの国際試合を行う為にはさらなる整備が必要である。											
	今後の方針について	H30年7月に「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトのマネージャーが着任し、事業がスタートした。今後の整備については、プロジェクトの中で、マネージャー、日本クリケット協会、行政が連携しながら進めていく。											

地方創生推進交付金事業 効果検証シート⑤

事業名	「クリケットタウン佐野」創造プロジェクト（市事業名：「クリケットタウン佐野」創造プロジェクト）												
担当課	スポーツ立市推進課	事業実施年度	平成29年度	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営						
事業の概要	日本ではマイナーだが、世界ではサッカーに次ぐ世界第2位の競技人口を誇るグローバルスポーツ「クリケット」をまちづくりの核として活用し、さまざまな取り組みを行う。そして、整備した国際クリケット場へ多くの誘客を図り、ここを拠点とした人の交流を生み、ここから新たな仕事づくりへとつなげていく。					予算状況	<table border="1"> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>75,482</td> </tr> <tr> <td>交付金額（千円）</td> <td>49,241</td> </tr> <tr> <td>一般財源（千円）</td> <td>26,241</td> </tr> </table>	総事業費（千円）	75,482	交付金額（千円）	49,241	一般財源（千円）	26,241
総事業費（千円）	75,482												
交付金額（千円）	49,241												
一般財源（千円）	26,241												
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成29年度 目標値	平成29年度 実績値	達成状況の説明								
	KPI①	クリケットタウンを通じた地域内での創業件数	3件	0件	H29は、マネージャーの選考、基礎調査、PRイベントの実施にとどまり、創業につながる取組ができなかったため								
	KPI②	外国人宿泊数	741人	631人	国際クリケット場整備工事により、使用期間が限られていたことによる。								
	KPI③	クリケット場入場料	250千円	0千円	入場料を徴する試合、イベントの未実施（主体が市であったため）								
	KPI④	クリケット関連産業を通じた域内消費増額	6,130千円	42,391千円	参加者7,359人1,969泊（JCA調べ）PRイベント来場者2,500人								
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域価値創造マネージャーの選考（プロジェクトの意義確認、マネージャー人材像設定、最適な選考プログラムの構築・運営） ・市民向け 寺虎家（ワークショップ）の開催 ・マネージャー公募（ハイクラス人材転職サイトの活用） ・基礎調査（旧田沼高校利活用、マーケット調査）の実施 ・PRイベント（華麗なる佐野クリケットフェスティバル）の実施 ※詳細は、別添資料のとおり			主な効果		<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加のワークショップを実施したことにより、本プロジェクトへの理解促進、協働意識が高まった。 ・イベントPRでは、広告換算値約158,236千円の実績となった。 ・世界におけるクリケットのマーケット規模を把握することができた。 							
取組の検証	改善余地の検証	平成29年度は、行政が主体となり、プロジェクトの準備に取り組んだ一年であった。平成30年度は、プロジェクトを本格化させる地方創生に向けた取り組みを早急に立ち上げ、実施していくことが事業成果向上につながると考える。											
	今後の方針について	H30年7月に秋山マネージャーが着任し、本格的なプロジェクト（佐野クリケットチャレンジ：SCC）がスタートしたことにより、成果向上に向けた事業が始まったが、行政としても常に情報を共有し連携しながら進めていく必要がある。											